

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 004	提案機関名 三浦市農業協同組合
要望問題名 ウリ科野菜に寄生するアブラムシ類のネオニコチノイド系薬剤に対する感受性の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 春から夏における三浦半島のウリ科野菜栽培では、アブラムシ類によるウイルス病対策として、ネオニコチノイド系薬剤を定植時の粒剤施用や、本圃でのローテーション散布の基幹薬剤として利用している。 平成28年作において、ネオニコチノイド系薬剤を適期に使用したにもかかわらず、アブラムシ類の発生が抑えられない事例が一部の生産者から報告されている。ネオニコチノイド系薬剤は、長期残効が期待できるとされており、不適切な散布タイミングによって発生する防除効果の低下とも考えにくい事例が多い。 そこで、ウリ科野菜(スイカ、メロン、カボチャ)で適用のある各種ネオニコチノイド系薬剤に対する、三浦半島で主に春に発生するアブラムシ種の感受性について検討いただきたい。 あわせて、ネオニコチノイド系薬剤とともにアブラムシ類防除体系を担う他系統の薬剤(スピノエース、チェス、ウララなど)に対する、三浦半島春発生アブラムシ種の感受性についても検討いただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	三浦半島地区事務所 研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 病害虫の診断同定及び発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立			
対応の内容等 ネオニコチノイド系殺虫剤はいくつかの系統に分類されますが、他県では特定の系統に対するワタアブラムシの感受性低下の事例が報告されています。そこで、まず当所試験圃場において育苗時のネオニコチノイド系殺虫剤各系統の粒剤施用における防除効果を確認し、その結果により詳細な感受性検定の必要性を判断したいと思えます。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			